

# 日本共産党市議団

小野寺幸恵・原 啓司・富岡 隆



原 啓司  
議員

## ●IR

「IR候補地特定に至るすべての課題が解決された」と表明されたことについては、環境影響調査が不十分であることや、何よりも重視しなければならぬ市民理解が進んでいない点を挙げて、何も解決されていないと指摘しました。

苫小牧国際リゾート構想推進事業については、予定されていた中間報告がされていないが、年度内の最終報告が可能なのかと質問し、新型コロナが拡大する中で、令和3年度予算は、IRよりも市民のいのちや暮らしが優先されることに向けられるべきだと指摘しました。

## ●生活保護受給者の健康管理支援

生活保護受給者の健診受診率がほかの健康保険と比較して大幅に低いことを踏まえて、国保のように無条件ですべての受給者に受診券を配布し、推進すべきと求めました。健康管理支援に必要な、専門職の配置については、「配置に向けて調整している」と答弁されました。



小野寺幸恵  
議員

## ●事業者へのコロナ対策

地元事業者から「年を越せない」などの悲痛な声があることを紹介し、国の持続化給付金や家賃支援などの継続の必要性を求めました。市長は「あらゆる政策の総動員をしなければならぬ。国の第3次補正予算の状況を見守りたい」と答えました。

また、倒産という事態にならないように、市独自の支援策も急ぐように、強く求めました。

## ●医療・介護現場の対応

医療機関では受診抑制などの影響で、夏・冬のボーナスを大幅に引き下げるなど経営に大きな影響が出ていること、市内の介護事業所ではすでに閉鎖するところがあることを紹介し、「国の赤字補填は待たないである。市から強く求めるべき」と提案しました。市長は、「あらゆるチャンネルで窮状を届けていく必要がある」と、優先度高く取り組んでいくことを示しました。



富岡 隆  
議員

## ●市営住宅等長寿命化計画

市営住宅の建替事業に伴い、今後、市民ホールの建設も予定されていることから、市民会館や文化会館の跡地を活用するなど、まちなか再生の視点から、「まちなかに市営住宅を建設すべきではないかと提案しました。

担当部長は、「今は具体的に、どの場所に、どのくらいの高さで市民ホールが建設されるのか見えていないことや、市営住宅を建設するには、それなりの土地が必要になること、まちづくりの方針として、既存町内会、自治会にも影響するので、5年後の見直しに向けて可能性について検討していきたい」と答弁しました。

コロナの影響から労働者が失業を余儀なくされ生活が困窮する状況もあり管理戸数を減らす考え方を見直す必要性については、「5年目の見直しの中で政策的なまちづくりなどを含め検討していく」と答弁しました。

# 無所属

議員 高秀 触沢

今議会では、ほかの議員さんの質問内容と重複することもあり私の一般質問は行いませんでした。コロナ禍の中で、市民の皆さんは大変な思いで過ごされていると思います。この新型コロナウィルスについて、私見を述べさせていただきたいと思います。私は現時点では新型コロナウィルスは発見されていないという認識でいます。病原性のあるウィルスだという論文や情報を見つけたことができません。このことは事実です。いったいどうなっているのかと感じています。テレビや新聞の情報を鵜呑みにせず、自分で調べることが、コロナ禍を抜けて出すことになると思います。10年間続いた議会だよりがこの号でひとまず最終号となりました。今後の議会の情報は議会ホームページからの発信となります。ぜひ市民の皆さんにおかれましてはアクセスをいただければと思います。